

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

砂場～感触を楽しむ～／岡崎市島坂保育園

砂場で遊ぶ子どもたちの姿を保育者が記録に残すことはありますか？その遊び方は、時期によって、子どもの育ちによって、またそこにある遊具や素材などの環境によって、様々です。砂場で遊ぶ子どもたちの気付きや発想に、保育者は、楽しい発見をしているのではないのでしょうか？新しい砂を大量に入れるなど、子どもにとって魅力的な砂場環境に配慮している園の事例をご紹介します。一人一人の遊び方に注目して、興味や関心、楽しんでいることを保育者が捉え、援助していることが読み取れます。



● 砂場で遊ぶ姿を記録して…／3歳児

✦ 場面1：砂山がきたよ！／5月

- 新年度、砂場にトラック一杯の新しい砂を入れた。そして、大きな砂山ができた。子どもも保育者も裸足になって戸外に出ると、子どもたちは砂山を足で踏んで「きゃっきゃ！」と声をあげ喜んだ。子どもたちは、土の上を裸足で歩くだけで「冷たいね」と感じたことを伝え合っていた。保育者が用意した水たまりに足を入れ、ピチャピチャと足踏みをして、感触を楽しんだ。
- その後、3つほどのグループができた。保育者と作った砂山の山肌を、スコップで叩いたり、手で山を固めてその感触を楽しんだりする子どもたち。水たまりの中に足を入れ、水や泥の感触を楽しむ子どもたち。バケツに泥水を入れて手でかきまぜながら、「お米といでるの！」と言うなど、見立て遊びを楽しむ子どもたちもいた。



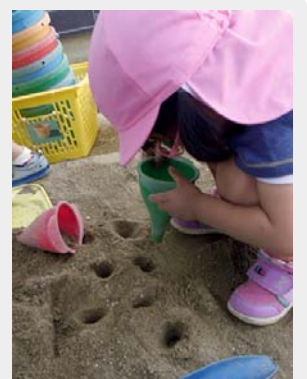
● 保育者の思い

それぞれの楽しみ方で、じっくり遊び満足感を味わった子どもたち。その表情を見て、保育者は、このような機会と十分な時間の保障をしながら、子どもたちが夢中になって遊ぶことのできる機会を作っていきたいと考えた。

✦ 場面2：繰り返し試す／6月初旬

- Nちゃんは砂場に入って、最初はどのようにして遊べばよいか分からない様子で、友達の遊ぶ姿を見ながらウロウロしていた。保育者は、自分で遊びを見付けられるように見守っていた。
- しばらくして、シャベルやジョーゴなどの砂場道具に興味を示し自分で持ってくる。そして、砂場に差し込み引き上げた。すると、砂場に穴ができる。「穴ができた！」と発見したことに喜ぶNちゃん。保育者が「本当だね！穴が開いたね！」と共感的に言葉を返す。それから、Nちゃんは何度も穴を開けながら、「穴いっぱいになった！」と笑い。面白がって繰り返しその行為を一人で何度も楽しんでいった。

● 保育者の思い



Nちゃんにとって、一つの物との出会い方だなと感じた。このようにその子どもにとっての意味を捉え、その姿を大切に、出合った対象にその子どものペースでじっくりと関わることのできる場を保障していきたいと思った。



❖ 場面3：ペチャペチャ音がするよ／6月下旬

- 子どもたちは、「砂・土・水・泥」などの興味のある対象に向かい、意欲的に遊びを始めた。Rちゃんは、バケツの中に水と砂を入れ、手で混ぜて遊ぶことを気に入っている。
- 今日は、Iちゃんも加わり、二人で混ぜたりこねたりし、感触を楽しみバケツ一杯に泥が入った。
- すぐ隣では、Kちゃんが一人で同じ遊び方を繰り返している。Kちゃんのバケツも泥が一杯になり、バケツからやや盛り上がった泥を両手でそっと押さえるようにして感触を味わっていた。
- Kちゃんは、押すと泥が跳ねかえってくるような力に不思議さを感じているように、何度も両手で押さえて手を戻す仕草を繰り返している。そのうち、徐々に両手に勢いが出て、はずみでペチャペチャと音が出ることに気付き「なんかペチャペチャいう！」と隣のRちゃんとIちゃんに伝えた。
- 二人もすぐにKちゃんと同じように自分たちのバケツの泥を両手で軽く叩き出した。耳を澄まし音が聴こえると顔を見合わせ「ハハハ」と笑った。そのまま手を止めずRちゃん「音するね！」とIちゃんに伝え、Iちゃん「ペチャペチャいってるね！」と伝え合った。Iちゃんが徐々に強く叩き始めると、それに同調し、Rちゃんも強く叩き始めた。
- Rちゃんは手を止めずに、少し離れた所にいた保育者に「先生！ペチャペチャ音がする！」と知らせる。
- 保育者はまなざしと頷きで共感しながら、音に耳を澄まし「本当だね！ペチャペチャって言っているね！」と言葉を返した。子どもたちは嬉しくなり、強く叩き続ける。そのうち泥が跳ね、顔や服にピュッとかがったが、気にせず「ハハハ」と笑いながら楽しんでいる。二人はどちらからともなく「♪ペチャペチャーペチャペチャペチャー」と口づさみながら、リズムよくマリンバでも叩いているように楽しんでいた。



● 保育者の思い

泥を叩くと音が出るという事に面白さを感じたKちゃん。それをRちゃんとIちゃんと共有した楽しい泥の音遊び。保育者も予想しなかった子どもたちの遊びの内容と広がりを見張った。

❖ 考察

- 砂場の遊びに着目し記録を継続して取ることで、子どもの環境への関わり方の変容を捉えることができた。
- 場面1では、砂山という、新たな魅力的な環境に出合った子どもたちが、体ごとその感触を味わっていること。場面2では、自分から環境に関わることで、砂が変化する面白さ（シャベルを差し込むと穴が開くなど）を味わっていること。場面3では、泥遊びの感触を味わいながら、“音”という新たな面白さを発見して、遊び方を広げていることなど、子どもたちの環境への関わり方や遊び方の広がりを感じられた。
- 3歳児は、言葉にならない子どもの行動、仕草などから、心の動き「なぜ」「どうして?」「不思議」等、保育者が理解することが特に重要だと感じた。3歳児が環境と関わる中で発見したこと、繰り返し試すことを保障し、子どもの感じていること、心の揺れを保育者が受け止め、共感していくことで、さらに意欲的に環境に関わる姿に繋がることが分かった。また、満足感を味わう体験を積み重ねることで、「科学する心」の芽が養われていくことが分かった。